

とっとり退職者連合

鳥取退職者 連合発

■戦後・被爆から 81 年
子どもたちに核兵器も戦争もない未来を!! ■



鳥取退職者連合は、平和、人権、環境を守る運動課題について連合鳥取と連携して取り組むことを定期総会の活動方針で確認しており、今年も県内3会場で開催される「ピースウォーク」に参加した。

【東部／7月27日(月) さざんか会館:退職者連合10人】

・平和行進(JR鳥取駅南口⇒会場)

・平和学習 DVD上映

「ヒロシマの記憶」～幻の原爆フィルムで歩く広島～

まだ暑さの残る18時、JR鳥取駅南口に集合した参加者はシュプレヒコールをあげての「平和行進」で会場のさざんか会館まで移動し、「平和学習」に臨んだ。参加者全員(165人)で戦争の犠牲者に黙とうを捧げ、広島市の原爆投下から2か月後に日本人のカメラマンが撮影した広島市内の各地の記録映像を視聴した。



元氣よく平和行進



参加者全員で黙とう



【中部／7月24日(金) 倉吉体育文化会館:退職者連合2人(事務局確認)】

未来へ、思いを届けよう！

<中部地協ニュースNo.6より抜粋>

7月24日(金)、倉吉体育文化会館において、連合鳥取中部地協2026ピースウォークを開催し、連合鳥取推薦議員3人、退職者連合役員を含む80人が参加した。



参加者全員で黙とう

冒頭、参加者全員で戦争犠牲者への慰霊の思いを込めて黙祷を行った。続いて、連合鳥取中部地域協議会の戸羽弘樹議長のあいさつの後、鳥取県内でただ一人の「被爆体験伝承者」である川上慎治さん(写真下)を講師に迎え、「戦後81年 被爆体験伝承 ～被爆者の思いを語る～」と題して講演いただいた。



川上さんは、被爆者の方々から直接聞き取った体験や思い、被爆の実相、そして「平和を次世代へどう伝えるか」という課題について語られた。被爆者の高齢化が進む中で、戦争の悲惨さや核兵器の脅威を改めて見つめ直し、平和の尊さを次世代へ語り継いでいくことの重要性を強調された。

参加者からは、「原爆の被害が一生続くのと同じように、日本人

として一生、戦争・原爆について学び続けなければならない」といった声が寄せられ、平和の大切さと不戦の決意を改めて確認する機会となった。



【西部／7月29日(水) 米子コンベンションセンター

：退職者連合2人(事務局確認)】

●米子市文化センター前にて
アピール行動を実施



●米子コンベンションセンターに
移動して平和学習
劇団“あり”の朗読劇
「ゴー・ストップ」鑑賞



参加者全員で記念撮影



中部地区協発

■陶芸体験教室を開催!!■

6月12日(水)、倉吉市不入岡の上神焼き窯元において、「陶芸体験教室」を開催し、JR西労組、自治退市町、NTT労組、退女教など12人の参加者が湯呑、コーヒーカップ、抹茶茶碗などの作品づくりを体験した。

約一か月後の7月13日(月)に作品が出来上がり、中国労働金庫会議室に集合して、各々の作品の出来上りを喜んだ。

参加者からは、「良い仕上がりに満足した」、「色合いがとても良い」などの感想があった。

すでに来年の作品についても話が弾み、嬉しそうに作品を持ち帰られた。

(寄稿 鳥取退職者連合中部地区協議会事務局長 平田 義人)



西部地区協発

■今年もたくさん収穫できたよ!■



昨年に引き続き、今年度も「ろうきん友の会」との共催で、「ブルーベリー狩り」を7月4日(土)午前7時から西伯郡南部町鶴田の「はるさん農園」にて開催した。



西部地区協議会の中島ちから会長のあいさつ(写真左)、赤井 堯(前)会長の説明で開会し、それぞれが広い農園に別れてブルーベリーを収穫した。

前日まで、天候が危ぶまれていたが、開催中は雨に降られることなく、参加者(約80人)は、にぎやかにブルーベリー狩りを楽しんだ。

私も1kg収穫し、朝食にブルーベリーのスムージーをおいしくいただいた。



多くの方がご家族で参加されていた。

まだ参加されたことがない方は、ぜひ来年ご家族で参加してみてください。

(寄稿 鳥取退職者連合西部地区協議会事務局長 後藤 譲)